

相双初の商用水素ステーション

移動式 5月浪江に開所



鎌入れする相良社長

アポログループのふくしまハイドロサプライ（福島市）は、浪江町の棚塩産業

団地に移動式水素ステーションを整備し、5月中旬の開所を目指す。福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）が立地し、水素社会実現に向けたさまざまな実証が展開されている「水素の町」で、燃料電池自動車（FCV）の普及拡

大を図る。

相双地方で商用の水素ステーションが整備されるのは初めて。名称は「水素ステーション ナミエナジ」で、産業団地の約750平方メートルに整備する。FH2Rで製造された再生可能エネルギー由来の水素を活



用する。専用のトラックのタンクに水素を貯蔵し、FCV3台分を満タンにできる量を提供する。同社は2023年度以降、浪江町を拠点に、東京電力福島第一原発事故で被災した12市町村に営業を

拡大することを検討している。

棚塩産業団地で地鎮祭が行われた。同社の相良元章社長が鎌入れし「被災したこの浪江の地で、一人の県民として何かできないかと考えてきた。FH2Rの水素を活用し、浪江、浜通り、

福島復興に貢献したい」とあいさつした。

このほか同町では、伊達重機（同町）と日本水素ステーションネットワーク台同会社（東京都）が12月の開所を目指す。商用定置式の水素ステーションを整備する計画が進んでいる。

2022.3.16
民友